



巻頭言『アメリカで出会った“きよせ”』

院長 工藤 翔二

数年ぶりにサンフランシスコを訪れた。アメリカ胸部学会に参加するためである。ジェット機の飛行距離が短かった頃、飛行機はハワイで給油して、サンフランシスコかロスアンジェルスに飛んだ。サンフランシスコはアメリカの入り口であった。私が初めてサンフランシスコに旅した1976年、街を歩くと日本人の若者が、土産屋の客引きに立っていた。「皿洗いをやりながら留学した」という話を聞いたのもこの頃である。やがて、80年代のバブル期になると、街にはカメラを肩にかけた日本人やブランドに群がる日本女性のグループがあちこちに見られた。あれから20年余り、すっかり様相は変わった。日本人の姿は少なく、替わって中国語を話す旅行者が溢れていた。歯ブラシを買いに寄ったスーパーのレジには中国の青年が立っていた。寿司屋の主人も日本語が通じなかった。時代の移ろいではある。

“きよせ”（清瀬）ほど、時代の移ろいを映す街はない。複十字病院から突き当たりの多摩全生園に至る「病院通り」の両側には、昔、15施設5,000床の結核病床があったという。結核の減少とともに、多くの療養所は一般医療への転換がなされ、複十字病院でも消化器外科、乳腺外科が重要な役割を果たしている。今、人口7万3千のこの街は2,200床の病院群と、看護・薬学・福祉系の3つの大学と研究所を擁した「医療と福祉」の街に生まれ変わっている。とりわけ500床に及ぶ呼吸

器病床と市内に働く60名近くの呼吸器専門医の存在は、“きよせ”の医療の世界にも稀な特色となっている。4年前、“きよせ”に赴任のために清瀬駅に降りて驚いたのは、酸素ボンベを押しながら歩く人々が街の其処此処に見られたことであった。もし問われれば迷わず、古くから結核とハンセン病を受け入れてきた街の暖かさこそ、“きよせ”の最大の医療資源だと答えるだろう。

1992年にインドに招かれたことがあった。そこにはマドラスの老大家、ラマ・クリシュナンという先生が来られていた。そして、昔、一緒に仕事をされたというイマムラ（今村荒男）、スナハラ（砂原茂一）の名を懐かしそうに挙げられた。そして、「最近のキヨセはどうなっている？」と、当時の私には答えられない質問をされた。今度のサンフランシスコの学会では、数年前まで私が役員をしていたアジア太平洋呼吸器学会のブースを訪ねた。そこには、旧知のインドネシアのファイサル・ユナス教授、上海の白春学教授も来ていた。話が弾むうちに、“ところで、ドクター・クドウの今度の病院はJATA（結核予防会のこと）か？”、“そうするとキヨセか？”、“自分もキヨセに住んだことがある”、“自分もだ”と。なんと両先生とも結核研究所の短期留学生だった。結核研究所の結核国際研修は今年、発足50周年を迎え、世界各国からの卒業生は2000人を超える。“きよせ”という地名が、沢山のアジアの人たちに刻み込まれていることを再確認した旅でもあった。

東京都（部位名）がん診療連携協力病院に指定されました

2012年4月から、複十字病院が肺がん、大腸がん、乳がんについて、それぞれ東京都（部位名）がん診療連携協力病院（東京医科歯科大学、東京通信病院など15病院）に指定されました。

呼吸器外科より



呼吸器センター長
白石 裕治

東京都肺がん診療連携協力病院に指定されて

この度複十字病院が肺がん、乳がん、大腸がんの東京都がん部位別診療連携協力病院に指定されたことは大変喜ばしいことです。呼吸器外科においては多摩地区有数の肺癌手術件数を有しながら、前回の東京都がん診療連携拠点病院選定時には指定されず大変残念な思いをいたしました。やっと当院の肺癌外科治療レベルの高さが認められたという感じです。

近年肺癌の外科治療は大きく変化しています。以前多かった重喫煙者男性の中枢型扁平上皮癌は少なくなり、代わって肺野末梢型小型肺癌（主として肺腺癌）が増えています。したがってより低侵襲な手術が求められるようになってきています。

低侵襲にはふたつの方向性があり、ひとつは肺をなるべく温存する切除方法を選択する方法です。肺葉切除を行うのではなく区域切除や部分切除を行うことがこれに当たります。

当科でも症例によっては根治性を損なわない範囲でこれらの縮小切除を行っています。

もうひとつは完全鏡視下手術で、極力創を小さくして患者さんへの負担を少なくする方法です。これを可能にしたのが胸腔鏡下手術用器具の進歩と外科医の技術向上です。

当科の胸腔鏡下手術は三年前までは小開胸創を置き、モニター映像に加えて開胸創からも直視して行うハイブリッド胸腔鏡下手術でした。そこで二年前に完全鏡視下手術を導入しました。術後の痛みが少なく術翌日から歩行が可能になっています。

今回東京都肺がん診療連携協力病院に指定されたことを受けて、より一層医療技術の向上に努め指定病院としての責務を果たしていく所存ですので、これからも複十字病院呼吸器外科をよろしくお願い致します。



呼吸器外科手術件数

	2009年	2010年	2011年
肺 癌	85	94	80
転移性肺腫瘍	2	6	5
総手術件数	202	211	195

乳腺外科より



乳腺センター長
武田 泰隆

東京都乳がん診療連携協力病院に指定されて

今回、複十字病院が肺がん・大腸がん・乳がんに対して、東京都がん診療連携協力病院に認定されたことは大変意義のあることと思います。多摩地区には、地域がん診療連携拠点病院が6病院、都認定がん診療病院が2病院ありますが、乳がんのがん診療連携協力病院は当院だけであり、また北多摩北部医療圏におきましては公立昭和病院と当院だけということになります。地域がん診療連携拠点病院を目指して院内の整備を行って体制を整え、平成19年に申請を提出したものの、都は5大がんプラス血液がんと婦人科がんも必要という条件を理由に（申請前はこのような条件は未告知であった）、当院は認定からはずされてしまいました。しかし、この時の経験や当時行った院内の整備が、今回の認定の基盤になっていることは言うまでもありません。特に、今回の申請において感じたことの一つは、認定が部位別になったということからか、各がんの整備すべき診療体制のレベルが拠点病院の申請に比べ非常に高いということです。つまり、認定された各がんにおいては、地域がん診療連携拠点病院より高いレベルの診療が要求されそれをクリアしているともいえるのです。もう一つは、各がんの診療体制の構築だけではなく、がん登録・緩和・地域医療連携・患者支援などチーム医療の確立が重視されたことでもあります。我々が今まで力を入れてやってきたことが、都が求めているがんの診療体制を構築するうえで間違っていなかったということだと思います。がん診療連携協力病院においては、がん診療を病院全体で支えていくことが求められているということではないでしょうか。



消化器センター長
生形 之男

東京都大腸がん診療連携協力病院に指定されて

今年の4月1日付けで、複十字病院は、肺がん、大腸がん、乳がんの東京都（部位別）がん診療連携協力病院に認定されました。認定されたことは大変名誉なことですが、残念ながらこれによって診療報酬やDPC係数が上がることは現時点ではないようです。

現在、東京都には国が認定する「都道府県がん診療連携拠点病院」が2か所、「地域がん診療拠点病院」が18か所あります。さらに、東京都が独自に認定している「東京都認定がん診療病院」が14か所あります。今回、さらに「東京都がん診療連携病院」が15か所加わり当院もその中の一施設として認定されました。名称が似ていて、国が認定したり、東京都が認定したりでややこしいですが、詳細は図1、表1を見てください。

要は、五大がんの患者さんの治療をそれぞれの医療機関の特徴を活用しながら地域で協力して行いましょうということのようです。また、東京都医療連携手帳（がん地域連携クリティカルパス）を活用することが記載されています（表1）。クリティカルパスとは、患者さんに手渡される病気を治すうえで必要な治療・検査やケアなどをタテ軸に、時間軸（日付）をヨコ軸に取って作った、診療スケジュール表のことです。患者さんが同じクリティカルパスの手帳を持つことで、施設や地域による治療の格差をなくすことができます。

数年前に、当院ではがん診療拠点病院に立候補するため、がん診療の地域医療連携パスを作成しましたが上手くいきませんでした。この理由はいろいろありますが、患者さんが手術・治療を受けた病院や主治医から離れることに不安があること、診療所の先生方も特に進行がん患者のフォローアップに関して不安があること、主治医も手間で面倒で腰が重かったことの3点が原因であったと思います。

外来の混雑を解消し、より多くのがん患者さんを受け入れるためにも地域医療連携は進める必要があります。また、クリティカルパスに用いる手帳には患者さんの治療経過などの情報が記入されるので、かかりつけ医以外の病院に他の病気で受診したときでもがんの治療の情報を共有でき患者さん自身のメリットもあります。

今回は、連携に協力していただける医療機関（開業医の先生方）の名簿が東京都ですでに作成されています。また、クリティカルパスに用いる手帳も東京都で作られ、すでに完成しています。前回に比べクリティカルパス導入のハードルはかなり低くなったといえるでしょう。

東京都では、5大がん^(注1)について集学的治療^(注2)の実施が可能であるなど、高度な診療体制が整備されている病院として、国が指定する「地域がん診療連携拠点病院（拠点病院）」及びこれと同等の高度な診療機能を有する病院として都が独自に認定する「東京都認定がん診療病院（認定病院）」を整備してきました（平成24年3月9日報道発表済）。

都内には、これら以外にも個別の部位ごとのがんの集学的治療等に積極的に取り組んでいる医療機関が多数あります。そこで、肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん及び前立腺がんの6つの部位ごとに、専門的ながん医療を提供している医療機関を「がん診療連携協力病院（協力病院）」として、認定することとしました。

本年4月1日付けで15病院を認定し、今後、拠点病院24病院及び認定病院10病院とともに、東京都医療連携手帳（注3）を活用した地域のがん診療連携体制の充実を図り、都全体のがん医療水準を向上させていきます。

(注1) 肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん及び乳がんの5つの部位のがんの総称

(注2) 外科的療法、化学療法、放射線療法等を個別の症例に応じて選択又は組み合わせる治療法

(注3) 拠点病院、認定病院、協力病院と、連携する地域の医療機関（かかりつけ医等）とが、病院ががんの種類やステージ等を考慮して作成した診療計画に基づき、協同してがん患者に切れ目のない医療を提供するため、その後の診療経過などを記入することにより、相互に診療情報を共有できるよう作成された手帳

表1 東京都認定がん診療連携協力病院（東京都福祉保健局、平成24年3月29日）

1	東京通信病院	肺がん、大腸がん
2	東京医科歯科大学医学部附属病院	肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、前立腺がん
3	社会福祉法人仁生社 江戸川病院	前立腺がん
4	日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	大腸がん
5	東邦大学医療センター大橋病院	大腸がん
6	国家公務員共済組合連合会 東京共済病院	乳がん
7	河北総合病院	大腸がん
8	東京都立大塚病院	胃がん、大腸がん、乳がん、前立腺がん
9	財団法人東京都保健医療公社 豊島病院	大腸がん
10	東京都健康長寿医療センター	大腸がん
11	財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	大腸がん
12	東京慈恵会医科大学附属第三病院	肺がん、大腸がん、前立腺がん
13	国家公務員共済組合連合会 立川病院	肺がん、大腸がん、前立腺がん
14	財団法人東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	大腸がん
15	公益財団法人結核予防会 複十字病院	肺がん、大腸がん、乳がん

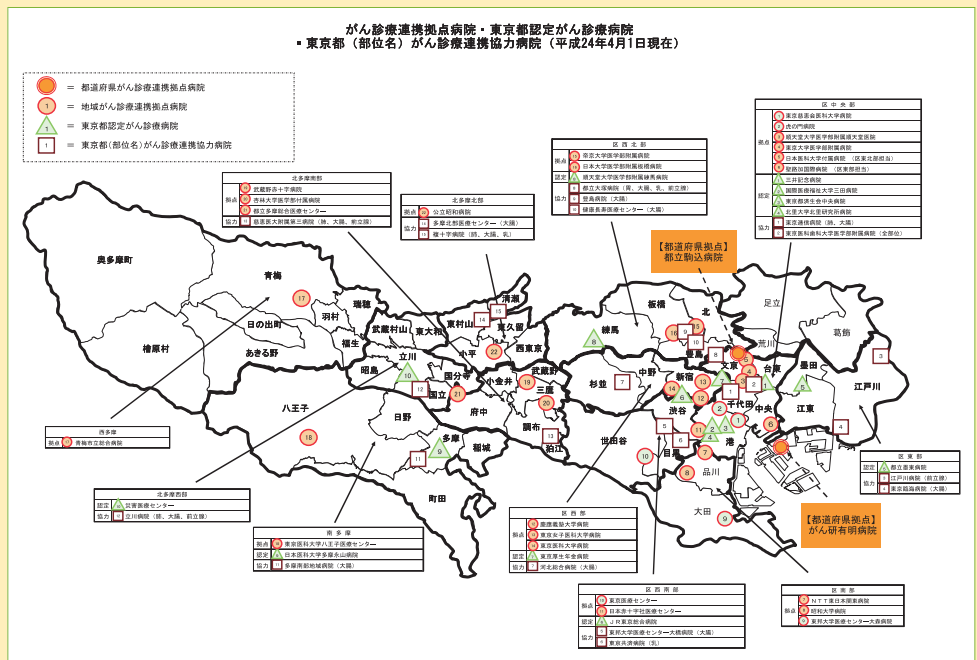


図1 がん診療拠点病院、東京都認定がん診療病院



がん診療支援センター長
吉森 浩三

東京都部位別がん診療連携病院に指定されて

2012年4月に、東京都部位別がん診療連携病院に指定され、がんの集学的治療の一つとして抗がん剤による化学療法も大きな位置をしめていと改めて考えさせられます。医療連携とは治療病院（当院）とかかりつけ医とで協力しながら患者さんの診療を継続することを目的としています。癌の治療においては一定の期間は定期的なチェックが必要であり、情報を治療病院とかかりつけ医が密に共有することで治療方針、療養生活などで有用性が図られます。これにより、今まで通りにかかりつけ医の診療を受けられ、通院時間、待ち時間の短縮など負担が軽減します。

当院では、2006年8月に、外来化学療法室が開設され、今年で6年目を迎えます。化学療法室は、呼吸器科、乳腺科、消化器科の3科によりがん化学療法の委員会を設立し、レジメンの検討エビデンス把握を行い外来化学療法を行ってきました。そして、在院日数の短縮化や包括医療制度の導入に伴い徐々に件数も増え、現在では年間平均1,100件前後の治療を行っています。化学療法室には、チェアーベット6台（それぞれに液晶テレビ）（図1）、薬剤ミキシングキャビネット（図2）があり、曜日によって差があるものの日に最大で12件の治療を当番医師1名、薬剤師1名、看護師1名で行っています。抗がん剤による化学療法を専門の治療室で行なうことで、起こり得るリスクを回避し、患者様のみならず、治療に関する医療者が安全に治療を行なうことが出来ています。またインフォームドコンセントの上で点滴の簡易化、安全性の向上を図るため皮下にポートを設置を行う時もあります。化学療法室では多数科の治療が行なわれており、また、疾患や治療時期により化学療法の内容も多種にわたり、それに伴う有害事象も様々です。

化学療法室では、患者様が治療を終え、家庭や社会等に戻られ、その後現われてくる有害事象にも対処できるよう、抗がん剤の専門的知識を持ち、外来治療という限られた時間の中で、身体的・精神的・社会的背景を把握し、患者様がセルフケア能力を高められるよう支えていく必要があります。今後も、外来化学療法において、患者様の一番側にいる医療者として支えていきたいと思ひます。

東京都部位別がん診療連携病院に指定され、需要が増えていくことを考えると、今後さらに医師、看護師、薬剤師をはじめ、化学療法を取り巻く他部門の方々とチームとして協力し合い、患者様中心の医療を提供していきたいと思ひますので、よろしくお願い致します。



図1



図2

new! 新 医師の紹介



診療主幹
(呼吸器内科)

さ さ き ゆ か
佐々木 結花

本年4月1日付で、公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸器センター呼吸器内科診療主幹として着任した佐々木結花(ささきゆか)と申します。出身は東京都日野市と多摩地区で生まれ育ちましたが、大学の関係で長く千葉県の国立病院機構千葉東病院で呼吸器内科医として勤務し、結核・非結核性抗酸菌および真菌症、気管支拡張症や肺気腫といった疾患を中心として呼吸器診療に携わってきました。今回ご縁がありまして伝統のある当院に着任でき、大変嬉しく思っています。

診察をさせていただきつつ患者様が少しでも笑顔になれるように、よく話し合うことが自分の診療の基本とっております。時折、下手なジョークや駄洒落が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

取り立てて趣味はありませんが、読書が好きで、歴史小説と、抒情的なミステリー(捕物帳を含む)を好んで選んでおります。好きな小説家は司馬遼太郎、藤沢周平、宮部みゆき、ドロシー・L・セイヤーズ、S・J・ローザン。運動はやるより観るスポーツ好きで、サッカー、野球など、TV観戦を楽しんでいます。長所は思いつかず、短所は様々思いつきすぎて挙げる事ができません。

5月中旬から、火曜日が午前午後とも予約の患者様、第一、三、五木曜日午前中に新患の患者様の診療を担当いたします。まだまだ不慣れな点もあると思いますが、ずっと前向きな気持ちを持って成長していこうと思っております。よろしく願いいたします。

【趣味及び特技】

サッカー・バスケ・テニス
球技はほとんど好きです

【好きな言葉】

【認定医登録】

【専門分野及びご紹介して頂きたい症例】

消化器領域の手術を必要とする症例

【メッセージ】

患者さんに負担の少ない低侵襲な治療をバランス良く取り入れていきたいと思っています。



しぶ や まなぶ
渋谷 学

- 配属先/消化器センター内視鏡科長
- 出身地/東京都

【趣味及び特技】

映画・芝居・マンガ

【好きな言葉】

あきらめたらそこで試合終了だよ

【認定医登録】

【専門分野及びご紹介して頂きたい症例】

呼吸器内科の感染症好きです。
症例のご紹介宜しくお願いします。

【メッセージ】

呼吸器内科後期レジデントです。今は目の前の事をこなす事で精一杯ですが、一つ一つ生懸命に診療していきたいと思っております。宜しくお願い致します。



しもだ まさふみ
下田 真史

- 配属先/呼吸器センター呼吸器内科
- 出身地/埼玉県

きよせ吸入療法研究会のご紹介

情報システム部長 早乙女 幹朗



「きよせ吸入療法研究会」は、2012年2月に発足した地域医薬連携の会です。最近、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの治療には吸入薬が使われることが多くなってきていますが、吸入デバイスにはたくさんの種類があり、それぞれの使い方が異なっています。ところが、吸入療法の実態を調べてみると、患者さんによっては薬剤の説明書を読んだだけでは正しい吸入法がわからず、肝心の薬剤がきちんと肺の中へ到達できずに薬効が発揮されていない、というケースも結構あることがわかってきました。つまり、正しく吸入療法を行うためには、処方医や調剤薬局の薬剤師による正しい吸入指導が患者さんにとってきわめて重要であるということです。

これまで、吸入指導は個々の医師や薬剤師によって行われてきましたが、指導方法や内容にはかなりのバラつきがあったのが実態で、患者さんのなかには正しい吸入法を習得できていない方も時に見られていました。今回の研究会は、医薬連携を通じて吸入指導のレベルアップを図るために工藤院長の肝煎りではじまったもので、院長先生を顧問に、複十字病院の私と国立病院機構東京病院の庄司俊輔先生、東久留米医師会会長である山口規夫先生の3人を世話人として発足しました。第1回講演会は、2012年2月16日に清瀬けやきホールで講師に信州大学薬剤部の百瀬泰行先生と江東病院副院長の田村尚亮先生を招いて行い、開催に当たっては清瀬・東久留米・東村山地区の医師・薬剤師、複十字病院と東京病院の登録医の先生方や両病院の看護師にもひろく広報し、医師・薬剤師・看護師など90名あまりの参加者を集めることができました。第2回講演会は3月8日で、同じく清瀬けやきホールで講師に東京女子医科大学八千代医療センター呼吸器内科教授である桂秀樹先生を招いて講演をしていただいた後、吸入薬発売各社の担当者による吸入実地指導を行なうという内容で、第1回を上回る100名あまりの参加者でにぎわいました。吸入実地指導の参加者からは各社の担当者に盛んに質問も出ていて、吸入療法への関心の高さが実感される催しとなりました。

ところで、わざわざ「きよせ」と平仮名を使っているのにはわけがあります。当院が立地する清瀬には、当院や国立病院機構東京病院など、あわせて500床を超える呼吸器疾患の専門病床があり、さらにその周囲には、専門病床を退院したあとの患者さんを引き受けるリハビリテーションや療養のための医療施設も数多く存在しています。世界的に見ても呼吸器疾患患者さんがこれだけ集まっている街は珍しく、呼吸器疾患における“KIYOSE”の名は単に清瀬市という行政区分にとどまらず、周辺の地域を含んだ広域のイメージがふさわしいと顧問と世話人は考えています。世話人には当初の3人に加えて清瀬市薬剤師会長の阿久津七光先生にご参加いただき、5月からは東久留米・東村山・西東京・小平・西武の薬剤師会長の先生方と公立昭和病院の小児科の先生にもご参加いただいて、さらに発展した形での7月19日の第3回講演会への準備を進めているところです。さらに、第4回についても本年秋を目指して準備中です。吸入療法に関心をお持ちの方のご参加を心よりお待ちしておりますのでよろしくお願いいたします。

ほろよいずの紹介

ほろよいず院内コンサート

2009年秋の第1回コンサートを皮切りに毎年春と秋に開催。とびっきりの歌声に加え、トークで患者様の笑顔と元気を引き出します。時には懐かしい曲で感動の涙も！

1. 男声カルテット「ほろよいず」

東久留米市を本拠とする男声合唱団「ダンディーズ」の団員4人が2004年に結成。童謡、唱歌、歌謡曲、黒人霊歌、ポピュラーなどレパートリーの広さを誇る。軽妙で親しみ易いハーモニーが評判を呼び、公共ホール、福祉施設、病院などからしばしばお呼びがかかる。現在までに出演回数90回、持ち歌80曲を超える。当初、「恐妻カルテット」と自称していたが、抗議を受け、やむなく改称。



2. 団員寸描

雨宮 一男 (トップテナー)

合唱歴50年、その甘い声で女性の人気を一身に集める。趣味の写真は玄人はだし。杉並区出身。

石川 顕男 (リードテナー)

合唱歴50年、歌唱力は随一。美術商。女性と料理の鑑定を得意とする。会津若松市出身。

酒井 健二 (ベース、リーダー)

合唱歴45年、生きることは歌うことを実践、ついでに愛妻も獲得。東久留米市合唱連盟理事長。愛媛県伊予市出身。

小坂紀一郎 (バリトン、元入院患者)

合唱歴10数年、全国三連覇の帝京大学ラグビー部元部長。東京ジュニアオーケストラソサエティ理事長。千代田区出身。





看護の日のイベント

ナイチンゲールの誕生日である5月12日に、看護部では看護の日のイベントを行っています。今年は5月11日（金）9時～15時、玄関ホールにて開催しました。今年は『ここで、見る』をテーマに、各部署からポスターが展示され、様々な工夫がなされた作品で、通行人の目を引いていました。イベント内容は以下の通りです。

血圧測定、体脂肪率測定、看護なんでも相談、手洗いコーナー、血糖値測定、健康相談、介護用品展示をはじめ、職員作品のスイーツ・デコ、OG職員の生花、療養型病棟患者様によるストラップ、4A病棟の作品、賑やかな1日となりました。来場された方も大変喜んで下さる方が多く、『楽しかった、ありがとう』など声をかけて下さいました。

体脂肪率測定を希望された方が多く、健康に対する意識の高さを感じました。

次回、イベントに参加して作品を展示したいと思われた方、ぜひご協力お願い致します。



各イベント報告

- ❖ 血 圧 測 定 76名 正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ❖ 体 脂 肪 率 測 定 75名 正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ❖ 手 洗 い 38名 実際に手を洗っていただき、グリッターバッグという洗い残しが光って見える装置を用いて、洗い残しやすい部分を確認してもらいました。
- ❖ 看護なんでも相談 8名
- ❖ 健 康 相 談 148名
- ❖ 血 糖 測 定 108名

平成24年看護の日イベント担当 稲垣 絵美子

スイセン「プリンセス・キコ」が咲きました

4月、正面玄関の前の花壇に、スイセン「プリンセス・キコ」が可憐な花を咲かせました。秋篠宮ご夫妻が浜名湖花博（2004年4月）でオランダ球根生産者協会の代表団とお言葉を交わされた際、スイセンの新品種に紀子妃殿下のお名前を冠するご承諾を得て、名付けられたスイセンです。この花壇のスイセン「プリンセス・キコ」の球根は、昨年秋に複十字病院が秋篠宮妃紀子殿下より頂いたものです。この冬は寒くて、なかなか芽が出ないで心配しましたが、ほっとしています。



呼吸器：春の3学会



臨床研究アドバイザー
倉島 篤行

今年の複十字病院は大活躍です。

まず皮切りは4月20日からの神戸で開かれた日本呼吸器学会総会です。私自身は21日に東京で開かれた第21回築地放射線研究会の講師となっていたので参加できなかったのですが、当院からは昨年より2題多い6題が発表され学会に大きく貢献しています。

2番目は5月10日から広島で開かれた第87回結核病学会総会です。

学会期間中は絶好の晴れ日和が続き、平和記念講演の緑が鮮やかでした。

今回の学会長重藤えり子先生の義父はあの大江健三郎の「原爆ノート」に出てくる広島日赤の重藤院長ですが、特別講演で大江健三郎氏は自らの様々な出会いを通して、「人の生きる価値は次世代のためによりよいものを作る中にある」と語っていました。

今回複十字病院はなんと昨年の9題に対して12題という奮闘ぶりです。私はずっと自分の専門領域である非結核性抗酸菌症領域しか聞けなかったのが全体の流れは一寸把握しにくいのですが、少なくとも日本の非結核性抗酸菌症研究は世界のトップレベルである事は間違いありません。

最後はサンフランシスコで5月18日から開かれた米国胸部学会です。毎年6月にAppleの新発表会が行われるモスコーンセンターという巨大な会場で、日本の呼吸器学会の3~4倍の規模、全世界から呼吸器専門医が集まり開催されました。なんと複十字病院からは4題も発表しました。阿部先生と青木先生が発表したX線画像動態分析はその筋からエレガントであるという高い評価を受けていました。私と森本先生の発表も非結核性抗酸菌症の分野で日本にはこういう研究者がいるのだというのは確かにアピール出来たでしょう。

第5回ラングウォークに参加して

リハビリテーション科 **山根 主信**
薬剤科 **鈴木 裕章**



4月29日に日比谷公園で行われたラングウォークに参加してきました。当日は快晴で、日比谷公園に着くとラジオパーク関連のイベントも開かれており、多くの人でにぎわっていました。

その中で工藤院長は笑顔でラングウォークの参加者への誘導を行われており、スタート前の挨拶をされた後は、参加者の方と一緒にウォーキングもされていました。

僕たちは初めての参加でしたが、せっかくなので10kmコースを選び、皇居の周りから飯田橋駅の辺りでまで歩いて折り返し、途中で靖国神社なども通ってゴールに着いた時にはスタートして約2時間が経っていました。とても気持ちのよいコースで、はじめてみる景色も多くありウォーキングを楽しむことができました。来年も開催されると思いますが、病院職員の方や、もしもう少し短いコース設定があればリハビリにいられている患者さん達にも声をかけてみたいと思いました。

お知らせ

この半年の間、第2次「健康日本21」というべき、厚生労働省の「次期国民健康づくり運動プラン」を策定するための専門委員会に工藤院長が参加してきました。これからの10年間、国が対策をとるべき主要な疾患の一つとして、がん、循環器疾患、糖尿病、認知症と並んで、呼吸器の生活習慣病であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)が取り上げられることになりました。結核予防会と複十字病院は2006年から「COPD共同研究」事業を開始し、COPDの知識の普及と早期発見の推進に力を注いできました。第2次「健康日本21」では、年齢層ごとの健康目標を定めるとともに、それを実現する地域社会の形成をもう一つの柱として推進することになっています。「医療と福祉の街ーきよせ」の地域医療が、その模範になるよう力を合わせましょう。

複十字病院外来医師担当表

H24.5.1 現在

待ち時間短縮のため、診察は完全予約制になっております

【初診受付】(月)~(金)▶8時30分~12時00分 / (土)▶8時30分~11時00分

【再診受付】(月)~(金)▶8時00分~16時00分 / (土)▶8時00分~11時30分

●予約センター TEL: 042-491-6228

【診察予約】(月)~(金)▶8時30分~17時00分 / (土)▶8時30分~12時00分

※診察予約の電話は午前中大変込み合いますので、午後に連絡して頂くようご協力下さい。

診療科		月	火	水	木	金	土	
呼吸器内科 261 264	初診	午前	工藤	奥村 倉島 1.3.5 2.4	尾形(英)	佐々木 吉山 1.3.5 2.4	内山 早乙女 1.3.5 2.4	尾形・吉森 1 早乙女 2 尾形・吉田 3 吉山・内山 4
		午後	吉山 吉田 工藤(宏)	尾形(英) 佐々木 早乙女 窪田	吉山 内山 矢野	工藤 尾形(英) 齋藤 林	早乙女 内山 高柳 矢野 國東(SAS含む)	尾形・吉森 1 早乙女 2 尾形・吉田 3 吉山・内山 4
	一般(再診)	午後	窪田 伊藤 久世	早乙女 佐々木 國東	尾形(英) 吉山 早乙女 工藤(宏) 2・4	尾形(英) 1.2.3.5 奥村 森本 青木 中川		
		午前		工藤(宏) せき外来	内山 サルコイドーシス 高柳 喘息外来			
専門外来	午後	倉島 非結核性抗酸菌症 森本 非結核性抗酸菌症	倉島 非結核性抗酸菌症 吉田 呼吸ケア	内山 禁煙外来 高柳(隔週) 禁煙外来	倉島 非結核性抗酸菌症 青木 再診のみ 禁煙外来	内山 禁煙外来		
呼吸器外科 261	初診	午前	白石			白石	白石 2 白石 2	
		午後	白石 兵庫谷			白石		
	再診	午前	葛城		喜多			
内科 306	初診 再診	午前	青木	下田(真)	伊	大塚(大) 齊藤		
消化器外科 305	初診	午前	池田 尾形(正)	生形	尾形(正) 渋谷	中浦	小山 阿部	中浦・小山 1 生形 2 中浦・小山 3 生形 4
		午後	池田 尾形(正)	生形 尾形(正)	尾形(正) 渋谷	中浦	小山 阿部	中浦・小山 1 生形 2 中浦・小山 3 生形 4
	再診	午前	池田 尾形(正) 若松	生形 尾形(正)	尾形(正) 渋谷	中浦	小山 阿部	
消化器内科 305	初診 再診	午前		吉原		吉原		
		午後		吉原		吉原		
乳腺外科 335	初診 再診	午前	担当医	小西・田中	武田・田中	関口・担当医	武田・小西	武田(第4週)
		午後		小西・田中	武田		武田	
循環器内科 306	初診 再診	午前	鈴木(文)	山崎	鈴木(文)	鈴木(文)	藤崎	鈴木(文)(第2週)
		午後	鈴木(文)			鈴木(文)	藤崎	
耳鼻咽喉科 265	初診 再診	午前	北原			大塚(健)第3・5週		
泌尿器科 266	初診 再診	午前			堀口(午前)		林(第2・4週) 午前	
		午後	平野(午後)			林(午前・午後)		
糖尿病外来 329	初診 再診	午前			鈴木	及川	高橋	
		午後			鈴木		高橋	
もの忘れ外来 202	初診 再診	午後	担当医					
歯科 267	初診 再診	午前						
		午後	石黒	石黒	石黒	石黒 午前のみ	石黒	石黒(第2・4週)

外来医師一覧

※(非)と記載のある医師は非常勤医です

【呼吸器内科】

工藤 翔二・尾形 英雄
吉田 直之・吉山 崇
早乙女幹朗・倉島 篤行
内山 隆司・佐々木結花
奥村 昌夫・國東博之
窪田 素子・矢野量三
森本 耕三・青木美砂子
伊 麗娜・久世眞之
伊藤 邦彦・中川 嘉隆
下田 真史・工藤宏一郎(非)
林志 文(非)
齋藤 雅美(非)
高柳喜代子(非)

【サルコイドーシス】

内山 隆司

【呼吸器外科】

白石 裕治・葛城 直哉
喜多 秀文・兵庫谷 章
平松美也子・下田 清美

【内科】

大塚 大輔(非)
齋藤 雅美(非)

【消化器外科】

尾形 正方・池田 義毅
生形 之男・中浦 寛
小山 英俊・若松 喬
渋谷 学・阿 部昌之(非)

【消化器内科】

吉原 和雄

【乳腺外科】

武田 泰隆・小西寿一郎
田中 規幹
関口 守正(非)

【循環器内科】

鈴木 文男・山崎 憲(非)
藤崎 正之(非)

【耳鼻咽喉科】

北原 哲(非)
大塚 健司(非)

【泌尿器科】

林 暁(非)
堀口 明男(非)
平野 功(非)

【糖尿病外来】

鈴木 晟時(非)
高橋 和人(非)
及川 眞一(非)

【歯科】

石黒 和夫

●担当医は、変更になることがありますので確認のうえ、ご来院ください。

複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1. 私たちは患者さま中心の医療を行います。
2. 私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4. 私たちは最新で最良の医療を提供します。
5. 私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

● 複十字病院の基本方針 ●

1. 一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2. 複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3. 職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4. 在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5. 院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6. 職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7. 患者さまは年齢、性別、地位に関係なく十分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8. 危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人事異動

2012年3月15日～2012年6月14日まで

【採用】

(医師)	佐々木 結花	4/1
(医師)	渋谷 学	4/1
(看護師)	杉山 良子	4/1
(看護師)	河野 和佳那	4/1
(看護師)	平良 由香利	4/1
(看護師)	志賀 みどり	4/1
(看護師)	外山 歩	4/1
(看護師)	内 部 美幸	4/1
(看護師)	山本 郁子	4/1
(看護師)	芳賀 まりえ	4/1
(看護師)	壹岐 育子	4/1
(看護師)	齋田 翔子	4/1
(看護師)	長坂 三千代	4/1
(看護師)	富田 芙美代	4/15
(看護師)	吉田 仁美	4/15
(看護師)	永田 希	5/15
(放射線技師)	相方 美咲	5/15
(看護師)	内藤 順子	6/1
(看護師)	小 林 久美子	6/1

【退職】

(看護師)	山本 ひで子	3/31
(看護師)	田中 光子	3/31
(看護師)	松 文子	3/31
(看護師)	伊勢 みゆき	3/31
(看護師)	高原 順子	3/31
(臨床検査技師)	千葉 亜妃	3/31
(臨床検査技師)	赤津 恵理	3/31
(看護師)	前田 智子	4/14
(管理栄養士)	相澤 万紀	4/30
(看護師)	村尾 みゆ紀	5/14
(看護師)	鴨 田 祐子	6/10

行事予定

1. 第21回乳癌基礎研究会

日時▶2012年7月21日(土)～22日(日)

場所▶長生館(埼玉県秩父郡長瀬町)

*今回は、武田乳癌センター長が当番世話人となっています。

2. 職員健康診断

日時▶2012年7月31日(火)・8月1日(水)・2日(木)

場所▶結核研究所 1階

消防訓練実施

2012年4月27日(金)午後3時より院内防災訓練を実施しました。従来より火災を想定した消防訓練は定期的に行っていましたが、地震を想定した訓練は今回が初めてです。

今後起きうる大きな地震に備えることを目的として、今回は震度6強(マグニチュード7.2)を想定し、各部署でのマニュアルを踏まえた初期行動の徹底、その後発生した火災への対応を中心とした訓練を結核研究所と合同で実施しました。

患者役、避難誘導役、報告係等に分かれて実施、その後、清瀬消防署立ち会いの下、消火器と消火栓訓練を行い、最後に消防署より講評をいただき終了しました。



編集後記

この「あかれんが」がお手元に届く頃には、少し前(?)の事になってしまいますが、日本中がわいた金環日食、みな様は観測されましたか?

前日までそれほど興味も無かった私は、外出先で日食グラスを買う為の長蛇の列を見て心変わり。当日は早起き、天気が気になり1時間も前から外に出たり窓から眺めたりワクワクソワソワ…しながらバッチリ見る事ができ、貴重な1日を過ごす事ができました。

今年は「金星の太陽面通過」、「金星食」と天体ショーが続くそうで楽しみです☆(Ha)

表紙の写真

夏の白樺湖の湿原は、トンボの天国だ。昔は、東京の家の周りでもジンジン鳴く蝉の声を背に、虫取り網をもってトンボを追いかけたものだ。トンボと目が合った。トンボは何を考えているのかな。(翔)